

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第48号(20130614)

発行 竹田 幸男



## 例会の窓

平成25年6月例会

日時 平成25年6月14日(金)

13:30~16:30

場所 寝屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者：新井 石田 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵

欠席者：1名(50音順・敬称略)

## 例会次第

### 1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

#### 2. 報告・連絡・協議事項

##### (1) NVC Monthly 6月記事筆者の件

- ・ 次回は天野さん

##### (2) 大阪アマチュア映像連盟総会の件

- ・ 竹田さん 新井さん 鉄具さんが出席した。
- ・ 今年秋の発表会、日時は未定、1団体17分の持ち時間となる。今年は竹田さんの「琵琶湖疎水物語」10分をエントリー予定、そうなれば7分以内の作品が追加可能。

##### (3) 映像北大阪 編集講習会

- ・ 6月28日、映像北大阪がローランドのソフト・ハードを使った編集講習会を行う。これを使う、使わないにかかわらず、編集のやり方を学ぶという点で参加してはどうか。佐伯さんが午前中から参加する。

##### (4) 市民文化祭作品を9月例会で締め切る。

- ・ 各人それまでに出品作品を考えておく。

##### (5) ふれあいフェスタ対策を

- ・ 新井さんが囲碁将棋の会を撮影しているので、ふれあいフェスタに出品するよう計画しておいて欲しい。その他、見に来る人が多くなりそうな、会員の多い団体の撮影を考えて欲しい。

### 3. 作品映写

##### (1) 東ヨーロッパ街角音楽拾遺 10分 竹下さん

- ・ 東ヨーロッパ各国での街角や食事時などでの音楽演奏や舞踊などを撮影、旅心をそそる楽しい作品。
- ・ ハイエイトでの撮影作品をDVDから取り込んで編集された。

##### (2) あさひ丘 小川紫陽花園 4分24秒 谷さん

- ・ 数年にわたって静止画で撮り貯めたものを編集された。
- ・ お隣の玄関前のあじさいなので、DVDを差し上げたら喜ばれるだろう。
- ・ 変化が少ないので「イメージネート」などの編集ソフトで動きを付ければ面白いだろうとの意見あり。

##### (3) メンバーの女性の回想 5分30秒 新井さん

- ・ 5月の映像協会撮影会での作品、前回映像が良くなかったのでAVCHDファイルで再生するよう修正したが画角4対3の設定のはずが、誤って真四角に近い画角になった。

- ・フィクションのストーリーを設定されたが、ストーリーが判りにくい点があった。フィクション作品の場合は、プライバシーの面から後ろ姿にするか、顔を入れない等の配慮をすれば、もっと自由なストーリーが作れると思われる。

( 4 ) ベネチアの 1 日 9 分 5 4 秒 竹田さん

- ・作品と言うよりも、ある行事のための地域紹介のために作ったもの。ベネチアの街の 1 日のさまざまな風物を描く観光映像。

4 . 来月の開催日

- ・ 7 / 1 2 日 ( 金 ) ワーキングスペースにて。

5 . 次回のカメラ当番 ( 天野さん )



## 電子書籍 を手にした 訳



天 野 忠 一

“ 電子書籍 ” ということばを見たり、聞いたりしたことはありませんか。古くから存在する紙とインクを利用した印刷物ではなく、文字や図画等を紙、金属、樹脂等の素材に電磁的に記録した情報をいいます。また電子書籍とはソフトウェア ( コンテンツ ) であり、それらを見るにはハードウェアである端末機器 ( 電子ブックリーダー ) が必要となります。コンテンツと端末機器を含めて、総称して一般的に電子書籍といわれている場合もあるようです。

よりやさしく上記を表現しますと、既に ( またこれから ) 出版された書籍の情報を、電子データ化し、無線・有線のネットワークからダウンロードして電子機器のディスプレイで読むことができるというものです。

歴史は新しく ( 電子書籍元年は 2010 年といわれています )、まだまだ一般的に認知されていないのか、販売店でその端末を探すのに大変苦労しました。私が知っている端末メーカーは僅か数社であり、しかも電子ペーパーを搭載した読書専用機は数機種しか発売されていないようです。

- \* 電子ペーパー ディスプレイが、紙と同じように反射光を利用して表示を行っているため、視野角が広く直射日光に当たっても見易く、目に対する負担が少ない。
- \* 電子書籍は、電子ブックリーダー、スマートフォン、タブレット、パソコン等でも見ることができます。

まだまだ発展途上段階（？）にあるようにも思える“電子書籍”ですが、存在を知った時、見た時、『これだ！』と思い、価格も手頃でしたので手にすることにしました。

電子書籍は、一般的に下記のような、メリット・デメリットがあると考えられます。

メリット      1台の端末で複数の書籍を保存できるのでかさばらない。  
軽く、いつでも何処へでも何冊でも持ち歩ける。読みやすい大きさに文字サイズが変更できる。  
書籍によっては書店で買うより安価である。  
著作権切れの作者の作品は無料。

デメリット    流通している全ての本が電子化されているとは限らない。  
購入できるストアが限定される。(端末機の専用書籍販売店)  
カラー印刷の書籍(ディスプレイがグレースケールの場合)&  
大型サイズの書籍(ディスプレイ6吋程度の場合)には向いていない。  
\*当方のものは読書専用機で、ディスプレイがグレースケール、6吋ディスプレイ

上記のデメリットと考えられる項目は、私には今のところデメリットには思いません。しかし使えば使うほど、思ってもみなかったデメリットに遭遇するかも知れませんが、それよりもメリットの5項目に大きく魅力を感じた次第です。

なぜ、今私は『電子書籍なのか』には理由があります。最近、色んな場で多くの方々とお話をする機会がありますが、話を終えた後に『どうも今日の内容も、今ひとつだった』『皆さんの気持を、こちらに惹きつけることが出来なかったような気がする』と感じることがあります。それらを解決するためには、読書だけではありませんが、『私はあまり読書が得意でないために身につけている語彙も少なく、表現力に乏しいからではないだろうか。読書をすれば得る物もあるだろうし、もう少し納得できる話(会話)が出来るのではないかと考えることが最近多くなりました。時遅しかも知れませんが、何とか時間を見つけて『本を読もう』と今回決意したわけです。(読書だけでは無理だろうとは思いますが)

ところで、現在私の部屋の本棚（かなり大型）には、ぎっしりと本が並んでいます。本棚に並べきれず床に積んだ本もあり、しかもそれらの多くは途中まで読んで“つんどく”だけの本になっています。まだ途中まで読んでおればいい方で、文学全集他は買ってそのまま本棚に飾ってあるだけのものも多数あり、まずこれらの本から読むべきかと思うのですが、専門書、how-to物、以外は電子書籍のメリットを活かし、端末（電子ブックリーダー）で読むことにしました。

## **電子書籍のメリットを今どのように受けているか。**（当方の端末での場合）

**1台の端末で複数の書籍を保存できるのでかさばらない。**

端末のメモリー容量、また書籍の情報量によって保存できる書籍数は異なりますが、私の場合約1300冊程度保存出来ます。すでに50冊の書籍をダウンロードしていますが、保管場所の面積は端末の大きさそのままであり、これから増えるであろう書籍にも、その居場所の確保を全く考える必要が無いというところが魅力です。

ダウンロードした本は端末の本棚に納められ、著者名順・タイトル順・日付順、閲覧履歴順と自由自在に並び替えが可能で、必要とする本を本棚から一瞬に選択でき選び易くなっているのもお気に入りです。

**軽く、いつでも どこへ でも何冊でも持ち歩ける。**

大きさは、110（幅）×173.3（高さ）×10.0（奥行）mm で質量（充電電池込）164gの薄型&軽量ですから、親書版の本とほぼ同等サイズです。歌い文句通り、いつでもどこへでも気軽に持ち出せ、好きな場所で本を読むことができます。電池寿命も全く気にすることなく、1回の充電で約7週間読書が出来るそうです。

先日気分転換に、公園の木陰で読書をする機会を持ちましたが、非常に爽やかな気分で読書ができ、かなりのページを読破することが出来ました。

また、旅先等へ本を数冊持って行きたいと思った時などは、『何の本を』と考えることなく、164gの端末1台を持ち出せば保存してある数十冊を持ち出すことが出来ますので、思う存分読書を楽しめそうですし有意義な時間が過ごせそうです。

先日電車に2時間ほど乗る機会がありましたので、それとなく電子書籍端末を取り出して本を読んでみることにしました。4人向かい合せの席でしたので、周囲の人にはどんな物が目の前にあるかが歴然です。少し時間が経過した頃、横のお客さんから『それ何ですか？』という質問を皮切りに、色んな質問が飛

び出して来ました。そうこうしているうちに前の方からも色々と聞かれ、しばらくの間電子書籍の話題が続きました。私のごく僅かの使用体験と、カタログから得た知識で説明をいたしましたがとても珍しい新しい便利グッズとしてとらえておられたようです。その時一瞬でしたが、まだ多くの人は持っていないであろう最新グッズを、自分は使っているという少しばかりの優越感を味わった瞬間でした。

### **読みやすい大きさに文字サイズが調整できる。**

この年齢になって読書する時に困る悩みのひとつに、文字が小さくて読みづらいいということがあります。本によっては、ルーペの力を借りなければならぬ時もあります。小さい文字を見ますので目は大変疲れ、長時間読書するのも一苦勞です。しかし電子書籍リーダーは、文字のサイズが調整でき（\*当方のものは8段階）自分の好みのサイズで読書が出来ますので、私にとってはありがたいポイントになっています。読書スピードは今までとは違い急速に進んでいきます。

### **書籍によっては書店で買うよりも安価である。**

現在のところ、実際に比較して本を購入したことがありませんのでよくわかりませんが、多分そうではないかと思えます。（デジタル化する費用はかかるが、紙、印刷、在庫、流通、店舗等々のコストは軽減？）また出版時期の古い本は確かに安いように思われます。端末専用のブックストアを覗いてみますと多くの本が古本屋で購入する価格か、それ以下とも思える価格で販売されています。出版時期は古くても新品で買うわけですから大変買い得であり、読みたい本はどんどん購入できそうです。

### **著作権切れの作者の作品は無料。**

これは私にとって大きな魅力です。古い作品ではありますが、名作・古典といわれる文学作品約2000冊以上が無料配信されているのです。芥川龍之介、石川啄木、菊池寛、太宰治、夏目漱石、樋口一葉、宮沢賢治、森鷗外、寺田寅彦、内村鑑三、その他多くの文豪？たちの名作がずい分揃っています。私が今最も読んでみたいと思っていた本が無料で配信されているということも、電子書籍&端末を選ぶことになった大きなポイントのひとつでもあります。

彼らの本とは、文学全集購入時（ずいぶん前）から本棚に飾り、その豪華さを見て楽しむ接点は今も続いています。読んで内容に接する接点は全くといっていいほど無かったために、今多くの本を再度無料でダウンロードし、文豪たちの作品の中に飛び込んでいるところです。

現代の作家たちとは、ものの捉えかた書き方も異なる面があるように思いま

すが、それもずいぶんと教えられる面があると同時に、ぐいぐいと作品の中に引き込まれていくように感じます。私だけかも知れませんが、さすが文豪といわれる人の小説の魅力はここにあるのかと思う時が多々あります。

楽しむと同時に、彼らの考え方文章表現力をコピーでもいい、一日も早く自分のものにしたいと思っていますところ。

**その他の便利機能（あまり利用しないが）も結構あるようですが。**

辞書： 読書中の文章の語句、単語の意味がわからない時にその単語を長押しすると意味を表示してくれる。

メモ・ハイライト： ページ内に手書きメモや単語や文章にハイライトで目印をつけられる

その他：

デメリットに対しては、私の目的から考えた場合、有って無いようなものであり今日現在まったく影響はない状態です。

## 電子書籍のダウンロードは、下記3方法から

WiFi接続でする方法

3G回線を利用していつでもどこでも携帯感覚でする方法（私のものは出来ないが）

パソコンに接続してパソコン経由でする方法

3種類があるようですが、私の場合パソコン経由でおこなっていますが何ら抵抗なく目的は達成されています。

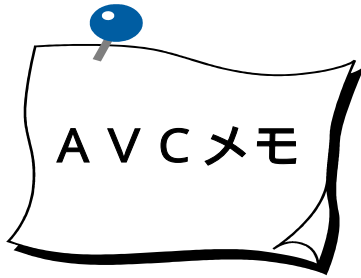
\* WiFi(ワイファイ) 無線LAN(パソコンなど無線でインターネットに接続する技術)のブランド名。

\* 3G回線 第3世代と呼ばれるモバイルネットワーク（携帯電話回線）のこと。

“電子書籍のPR”ではと、思われるようなことを長々と綴ってまいりましたが、久々に安価でいい買い物をした感じです。

メリットを十分享受しながら、

本来の一番の目的 『少しでも話が上手になりたい。そのためにより多くの本を読み、そこから得たものを会話・スピーチに活かしたい』という切なる願望を、この電子書籍のフル活用で成し遂げたいと思っている 今日この頃です。



## 使える！ 音声合成

竹田 幸男

映像作品の効果を高めるためにナレーションは非常に重要な役割を担っています。もちろんBGMだけの作品、中にはナレーションを好まず、あえてキャプションで説明をする作品もありますが。

ナレーションが取り付きにくいのは、個人差が大きいことがあります。プロの方はアクセントも正しく、感情も移入してよどみなくしゃべれますが、私たちはアクセントはもとより、声が良くないとか、言い間違い、感情の表現、間（ま）の取り方など、プロとの差が非常に大きいので、二の足を踏む人が多いと思います。でも、その、訥々とした所が、一つの魅力でもあるのですが。

そういうわけで必要性を認めてはいても、私たちは、なかなかナレーション付きの作品に取り組めないのが実情です。

ここに有力な助っ人が出て来ました。音声合成、というものです。

音声合成には2つの大きい流れがあります。一つは音声とは無関係な単純音や雑音などを組み合わせ、人間の発音器官の性質で味付けしたもので「フォルマント合成」などと呼ばれます。今の時点ではロボットの声のような声色が特長で人間の声とは違った印象があります。

もう一つは音素片合成などと言われるもので、実在の人間の声を録音し、それを切り刻んで組み合わせるもので、うまくいったときは人間の声そっくりに聞こえますが、人間の会話は、同じ音でも使われる場所によって違う発音がなされるので、アクセントや感情などを加味した組み合わせが難しく、データ量が膨大になります。コンピュータの進歩で、私たちにも手の出る所まで来ました。この方式で今最も自然に聞こえるのが、「コーパスベース音声合成方式」と言われるものです。

この方式で商品化したものが色々出ています。業務用に高価なものが販売されていますが、その機能を限定したものが、我々が利用しやすい価格で出ています。

一つはメガネレンズメーカーである「保谷（Hoya）」が開発したものを、機能限定してワープロソフト「一太郎」の上級グレード「スーパープレミアム」に付属させている「詠太（えいた）」です。女性2人（みさき、さやか）、男性1人（しょう）の計3人の話者があり、話すスピードを変えられるので、同じ話者でも違った印象の声にすることができます。

もう一つはAI（エーアイ）ソフトが開発した「声の職人」です。これも高



価ですが、機能限定で最初 E d i u s の専用ソフトとして一話者いくらで販売されてきました。最近では「ソースネクスト」のインターネットショップで「かたん！ AI Talk 4話者パック」として4話者（あんず、かほ、のぞみ、せいじ）付きで安く販売されています。この方は「速度・ピッチ」の調整ができない、という限定がついていますが、安いのが魅力です。聴いてみたところ、E d i u s 付属のものに比べて、年月が経った分、改良されたのか、より自然な感じに聞こえました。

この音声合成をうまく使って自然に発声させるには色々な工夫が必要です。これについては稿を改めてお話ししましょう。